

令和6年度 府立亀岡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

学校経営方針		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点	
<p>生徒一人一人が個性や能力を伸長させ、自立的に社会に参画し、人権尊重を基盤として共に支え合いながら、地域社会の一員としての役割を果たすことが求められています。このため、教育目標や教育方針に基づき、「自立し、ともに学び続ける(対話・挑戦・創造)」を最上位目標に掲げ、各学科、クラス、専攻がそれぞれの特色を活かしながら切磋琢磨することで、学校の活性化を図ります。</p> <p>「自立し、ともに学び続ける」 (対話・挑戦・創造)</p> <p>(1) 質の高い学びと確かな進路実現の具現化 (2) 社会的自立を図るために必要な資質・能力の育成 (3) 地域・保護者に信頼される社会に開かれた学校づくり</p>		<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や自治体等の関係機関と連携することで充実したものとなり、生徒の多様な進路に対応することができた。 ・普通科、探究文理科それぞれの取組の成果を学校全体に広げることができた。 ・家庭等との連携や教職員間の連絡を密にすることで、生徒理解の促進、組織的な支援体制の充実を図ることができた。 ・新学習指導要領及び観点別評価について、評価の在り方等に関する研究を継続できた。 ・個別の進路指導の実現に向け、校内体制の確立を図ることができた。 ・コロナ5類移行後の行動制限がない形で文化祭・体育祭を実施し、生徒が主体的に参加し協働する力を高めることができた。 ・人権学習では時代の変化に合わせて取り扱う内容を更新させながら、工夫・改善して実施した。 ・施設等の破損箇所・不良箇所について、教職員間で連携し、スピード感をもって修繕に努め、安心・安全な教育環境の維持管理に努めることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究文理科と普通科の活動の共有を更に継続して行い、互いに刺激を受けることで活動をさらに発展させる。 ・わかりやすく質の高い授業づくりのために公開授業週間を積極的に活用するなど、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成に向けた取組の充実を図る。 ・観点別評価など新学習指導要領完成年度における学校システムの確立を目指す。 ・Can-Doリスト3級の達成率をさらに向上させる取組を工夫する。 ・学校行事等における生徒の主体的な活動の促進のための仕組みづくりや、実施方法などの改善に努める。 ・ホームページやWeb・SNSなどを利用した発信の仕方を工夫し、亀高生の日々の活動の様子を発信するツールとして有意義に活用する方法を確立する。 		<p>高い人権意識を持ち、社会に貢献し、牽引できる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現状からのレベルアップに挑戦 - <p>○ 将来を観る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの将来を見据えて進路目標を定めることをねらいとしたキャリア教育の充実 ・的確な学力分析に基づく希望進路の実現に向けた進路指導の実施 <p>○ 学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を喚起し、質の高い授業づくりに向けた授業力向上やICTの効果的活用のための研修の実施 ・完成年度を迎える学習指導要領の確かな実施 ・探究活動の更なる充実 <p>○ 社会に通じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に通じる力を育む「ジェネリックスキル」や「探究クリエーション」の深化と、Can-Doリストの積極的活用 ・生徒の主体的参加をねらいとした行事等の運営 ・部活動やボランティア活動等の更なる充実 <p>すべての教育活動で重点的に取り組む内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習、教職員人権研修 ・大学等や関係機関、地域との積極的連携 ・デジタルシチズンシップ教育 ・教育活動の積極的広報 ・安心、安全な教育環境の整備 <p>特色ある取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーサイエンスネットワーク京都(府立高校特色化事業) ・国際理解教育 ・まなびサポート事業 	
評価領域	重点目標	具体的方策		評価	成果と課題
組織・運営	魅力ある学校づくり	1	各学科、専攻の特徴を活かした高大連携、地域連携等の取組を充実させる。	A	普通科は卒業生や大学教員、市役所の方に御講演いただいたほか、亀岡市内各所に取材をさせていただいた。また3学期には演劇の団体によるインプロビゼーション(即興演劇)の授業、教職員研修を実施し、進路探究にも外部の団体に携わっていただいた。探究文理科は、探究クリエーションや土曜探究講座で大学や自治体、企業など多くの団体にご支援いただいた。高大連携事業では、1、2年生が各3回の体験授業・学校見学を行い、生徒の多様な進路に対応することが出来た。地域の芸術祭への生徒の参加及び、地域で活躍するアーティストの講演会を2回実施した。次年度以降の継続が課題である。
		2	探究文理科の取組を工夫・充実させ、学校全体の探究活動の幅をさらに広げる。	A	京都探究エキスポでは探究文理科だけではなく、普通科のジェネリックスキル、美術・工芸専攻の代表者もポスター発表をした。また探究文理科が堀川高校と連携して実施した探究道場について、探究エキスポで堀川高校、西舞鶴高校と本校の3校共同で発表した。
	信頼される学校づくり	3	家庭や地域、関係機関との連携を図り、個々の生徒が抱える課題の把握や配慮・支援を要する生徒へのきめ細かな指導を組織的に行う。	A	生徒・保護者への対応について、家庭と緊密に連絡を取り、必要に応じて外部機関とも連携した。学年内、他分掌とも情報共有した。心身の不調を抱える生徒が多く、欠席過多の生徒も増加した。家庭との連携をとくに心がけた。場合によってはスクールカウンセリングの活用を生徒、保護者ともに積極的に勧め、医療機関との連携等、多面的に解決を図った。家庭的あるいは自らの心身に潜在的に課題を抱えている生徒も多く、引き続き注意深く指導していきたい。進路実現に向けて、本人・保護者との連携を密にするとともに、他分掌との連携を強化し組織的に指導を行うことができた。人権上の配慮を要する生徒の情報を教職員間で共有し、生徒理解の促進、教職員間の連携強化、組織的な支援体制の充実を図った。行政機関や医療機関とも連携し、課題の正確な把握ときめ細かな支援に努めた。保護者、関係機関と連携し、個々の生徒の状況に応じて適切な配慮、支援を提供した。
		4	Web、SNSなどを利用して生徒の学びの様子を発信し、広報活動を効果的に行う。	B	Instagramでの日々の情報発信を、各分掌の協力も得ながら積極的に進めることができた。また、学校ホームページについて、メンテナンスが容易になるよう業者による改修を実施した。それに伴い、部活動紹介ページの更新など内容の見直しも進めている。Instagramを利用して、4月から32回の更新を行った。学びの様子を積極的に発信することにより、美術・工芸専攻に興味を持ってもらうことができた。体験授業や学校説明、実技講習への中学生と保護者の参加につながった。例年に比べ更新のペースが落ちてしまった。

教育課程 学習指導	学力の向上	5	わかりやすい授業づくりのための授業力向上に向けた取組を進める。	B	公開授業週間を設定し、新学習指導要領に基づいた、生徒が自立して未来を拓いていく確かな学力を伸長させる授業作りの実践を共有することができた。また、ICT活用実践の共有の視点を持ち、授業改善に資する刺激を受けることのできる取組となった。公開授業週間は、教科の枠を越えて実践発表と意見交換の場を設ける他にはない貴重な機会となっており、来年度も適切な時期に実施していきたい。来年度は公開授業週間以外の機会にも教科の枠を越えた交流を行っていただければ本校の教育の質の向上につながると思っている。
		6	タブレットや学習支援ツールの効果的な活用の研究を行う。	B	ICTの「教具的活用」の段階には多くの教員が到達しており、板書やプリント教材を用いてきた取組を電子黒板やタブレットを利用して実施したり、小テスト等の実施を学習用端末アプリのロイロノートを利用して実施したりし、生徒の学習の効率化や教員の業務改善に役立てることができた。ただ、ICTの「文房具的活用」は限定的であったため、来年度には、教員の意識改革やICT活用技能の向上を図る措置が必要である。2学期から始まった2件の遠隔授業は、生徒、教科担当にガイダンスを行った結果、担当者が各自で遠隔授業を開始できるようになった。
		7	完成年度の学習指導要領の確実な実施に伴い、授業や考査、円滑な評価を行う。	B	教科主任会議や教科会議を通して、評価について共通認識を持つことができた。考査後には成績処理やその後の授業計画の打ち合わせを行う短縮校時を設定し、必要な協議を行うことのできる環境が整えることができた。新学習指導要領の実施3年目を迎え、本校の新たな教育課程も一定の軌道に乗った。ただし、実施する中で浮かび上がる課題の解決を常に図っていかなければならない。令和5年度に作成した定期考査時の監督の業務マニュアルを今年度用に改訂し、考査が確実かつ円滑に実施されるよう工夫した。
進路指導	希望進路の実現	8	各学科、専攻の特徴に応じた組織的・計画的な進路指導を充実させることで、生徒の進路実現の可能性を広げる。	B	個々の生徒の進路希望に応じて、必要な個別指導を組織的に実施できた。各学科、専攻の目標や特徴に応じた指導についても実践事例を蓄積してさらに組織的に取組が進められるようにしたい。美術・工芸専攻独自の進路プログラムを「未来デザインプロジェクト」と総称して、学校見学・体験授業(高大連携事業)やかめおか霧の芸術祭とコラボレーションしてクリエイターの講演会を複数回実施した。また、大学の教員による出張授業も新たに実施した。
		9	的確な学力分析に基づいた教科指導、進路指導を行う。	B	教育課程研究協議会や教員DX研修、その他の研修を通して、教員が新しい学習指導要領等を間断なく研究し、これからの時代をよく生きるための新しい「学力」の伸長につながる授業実践を計画・実施することができた。総合学力テストや模試の結果概況を諸会議で共有し、各教科に分析を依頼して、継続的に意識をすることにより、教科指導の改善につなげていこうとしている。今後は、総合学力テストの結果をもとにデジタル教材を活用した取組も進めたい。
キャリア教育	キャリア教育の充実	10	将来を見据えたキャリア教育を「キャリア10」として、第1、2学年を対象に10の取組を実施する。	B	「キャリア10」策定やキャリア教育の定義についての意識づけなど、キャリア教育を意識することはできた。「キャリア教育講演会」を設定し、それを出発点としてさまざまな取組を結びつけ、系統的、継続的なキャリア教育が展開できるようにしたい。複数の分掌と連携し、キャリア教育を行うことができたが、「キャリア10」としては徹底できなかった。体系的に進路について考えさせられるようにしたい。外部の取組や各種募集等も積極的に紹介し、さまざまな観点から希望進路を考えさせることを心がけた。12月からは志望理由書を中心に、ジェネリックスキルでの進路探究とも関連させながら、真摯に将来と向き合い、取り組むよう指導した。全ての生徒が将来に展望を持ち、主体的に取り組めるよう今後も指導していきたい。
	社会に通じる力の育成	11	「ジェネリックスキル」の取組を充実させて、全生徒が卒業時にCan-Doリスト3級達成を目指す。	B	ジェネリックスキルの具体的な取り組みは、授業時にはなかったが、文化祭や体育祭などの学校行事において、社会に通じる力を高めることができた。ジェネリックスキルは、1、2年生の取組は昨年度までの反省を踏まえ内容のブラッシュアップを試み、外部との連携も積極的に図った。2年生では「YouTube甲子園」において一次審査を通過したり、京都探究エキスポに参加したりと活動の幅も広がった。3年生はジェネリックスキルの授業がなく、具体的な取組ができなかった、その上で日常生活で意識できるような取組を行えなかったことが課題である。Can-Doリスト卒業時全項目達成率は55.6%(133人)であった。
	国際理解教育の充実	12	グローバル社会に対応した多様な文化の理解に向けた取組を進める。	B	キャンパスゲート社による国際交流(授業体験)の受け入れを2件実施。本校生徒にとっても貴重で有意義な体験となった。海外短期留学チャレンジ補助事業による短期留学1名、府立高校ハイブリッド型英語研修4名参加。その他自主的留学もあり、海外に興味を持ち実際に行動する生徒が増えてきていると感じられる。

生徒指導	学校行事、部活動等の充実	13	体育・スポーツ、芸術文化活動の活性化と、学校行事及び特別活動の充実を図る。	A	文化祭と体育祭の二大学校行事について、生徒が各リーダーとなり、準備に尽力し、当日は大変な盛り上がりを見せることができた。生徒会や各種委員会がより主体となり、企画・運営に携われるようにしていくことが課題であり、その他も含む学校行事の在り方について、生徒会本部役員にも週1ミーティングで話を聞きながら、来年度に向けて検討している。芸術文化活動に関しては、芸能鑑賞(狂言・演劇)で1、3年がホンモノに触れることで有意義なものとなり、来年度も継続して実施したいと考えている。
		14	部活動やボランティア活動への積極的参加を通して、健全な心身の発達を目指す。	A	年度当初の新入生歓迎会や部活動体験、部活動激励会を通して、新入生の部活動加入に向けて働きかけ、1年生の加入率は90%を超えた。CLUB ACTIVITY DAYの取組の改善点として、今年度は生徒会本部役員で部活動応援ムービーを作成し、全校生徒の当日への動機づけを行ったことは成果である。CLUB ACTIVITY DAYの在り方については、様々な意見があると感じており、生徒も教職員も部活動が活性化した状態への共通認識を持つことが必要であると思われる。ボランティア活動については、各部活動による地域貢献による奉仕活動、「社会福祉体験」、「まなびサポート」、「亀岡まつり」等に対し、各生徒が前向きな姿勢で取り組んでいる。いかなるボランティア活動も1回の経験から貴重な体験となり将来につながると捉え、今後も引き続き生徒への積極的参加を促していきたいと考えている。
	生徒の自立・自律	15	学校行事の企画や運営に生徒が主体的に参加できるようなより一層の工夫を図る。	B	今年度は各行事を各種委員会と担当教員のみで企画・運営するのではなく、生徒会本部役員と各種委員会ですべての取り組み内容について話し合い企画・発案し、企画を当日のプログラムに採用して行事を実施することができた。課題としては、まだまだ教員主導で枠組み全体を取り仕切っている部分が多々あり、本校生徒の可能性を最大限に生かすには、さらなる生徒支援の方法の工夫が必要であると感じている。生徒会活動としては、今年度初めての試みとして、「フォトコンテスト」を企画・実施したり、年間通したInstagramの運用をしたり、「京都府自転車安全利用推進員」の資格取得をした生徒会本部役員が「交通安全ムービー」を作成し、全校生徒に向けて上映して交通安全の啓発活動をするなど、多くのことに主体的に挑戦することができた年であったと言える。学年行事の運営について、学年行事委員を中心に、極力生徒主体で運営できるようにした。文化祭、体育祭をはじめ、研修旅行等、生徒が主体となって取り組む場面が昨年度よりも増加した。学年行事も生徒が主体となって運営できた。次年度に向けて、最高学年、また成人としてもさらなる自立、自律を図りたい。文化祭や体育祭などの学校行事において、昨年度より各自が主体的に取り組むことができた。
		16	成年年齢引き下げにより、社会人としての自覚と責任を一層意識させる指導を行う。	B	最高学年としての自覚と責任ある行動が、まだまだ不十分な生徒が見られる。具体的には時間を守ることや、人の話を聞く姿勢などに課題が残った。
17	デジタルシチズンシップ教育を充実させる。	B	パスワード、アカウントの管理が不十分な生徒が多くいた。4月～12月までの期間で63件の対応をしたが、担任と連携しながら言い続ける必要があるため、学年末に注意喚起の連絡をする予定である。SNSの使用に関して、正しい情報モラルや起こりうる危険について周知するため、京都府教育委員会や京都府警察本部からのスマホ・ケータイ・タブレット利用のルールとマナーについてのリーフレットや非行・被害防止パンフレットなどを配布したり、外部機関からの情報を、適宜、Classiで配信したりすることで、生徒への注意喚起と継続的な指導を行った。情報推進部作成の「SNS利用チェックリスト～デジタルシチズンシップを意識して～」も適したタイミングで生徒への活用を勧めた。生徒会のInstagramの運用については、日々指導すべき点が尽きないが、試行錯誤しながら問題点を改善することで、生徒たちの学びになると考え、粘り強く指導・支援していきたいと考えている。		
人権教育	高い人権意識の確立	18	人権学習について、方法等を工夫改善し、自他の生命や人権を尊重し、人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践できる資質・能力を育成する。	B	生徒の発達段階に合わせて、「アサーションを知らう」「障がいと人権」「性の多様性と人権」(1年生)、「在日コリアンの思いから学ぶ」「部落差別問題を考える」(2年生)、「就職差別について考える」「多文化共生社会を生きる」(3年生)をテーマとして設定し、人権学習を実施した。実施に際しては人権教育部と学年部で事前に研修会を行い、生徒の現状に応じた学習となるよう教材の調整や改善を行った。また、講師を招いた講演を効果的に組み込むとともに、グループワークなど生徒が主体的に学習に取り組むための工夫を行うことで、生徒が人権問題を自らの課題として捉え、解決に向けて実践するための資質・能力を育成することができた。
	教職員の人権意識向上	19	高い人権意識に基づく教育活動を実現するために、教職員研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。	A	「人権教育を推進するために」(府教委発行)を用いた啓発を年度当初に行うとともに、いじめ調査の実施(年2回)やHuman Rights(人権通信:教職員版)の発行を契機として、人権意識の高揚に係る取組を計画的に実施した。また、「現代社会における部落差別と人権教育」と題して、大阪公立大学人権問題研究センター阿久澤麻理子教授による講演を校内教職員向けの悉皆研修として実施することで、教職員の人権教育推進の担い手としての自覚を高めるとともに、教職員自らが人権尊重の理念等についての認識を深めることにつながることができた。

健康・環境 美化	美化意識の高揚	20	清潔な学習環境を保つ清掃・衛生管理を進める。	B	日々の清掃活動の実施について美化委員会を中心に生徒主導で行うことができた。
	健康管理	21	健康診断、経過観察、事後指導を充実させ、生徒の健康管理、生活習慣の改善に努める。	A	健康診断に関して、全ての指導を迅速に終えることができた。経過観察、事後指導を適切に行うことが出来た。
教育環境 の整備	安心・安全な環境の確立	22	日常から施設・設備の維持管理に努め、安心・安全な学校づくりを進める。	B	修繕箇所について、教員、技術職員と連携してスピード感を持って対応できるよう努めた。司書室のエアコンの取替、教室のエアコンの修繕、200台棟トイレの壁の張替え、防犯カメラの設置を行った。さらに、ブロック塀の改修、防球ネットのかさ上げなどを行った。また、普通教室などのエアコンの取替に着手した。
	ICT機器導入と管理	23	タブレット導入を含め、高度化するICT機器の活用を協力して進め、管理や運用ルール等、ネットワークの維持のためのより良い体制の構築に努める。	B	新入生のiPadを早期に使えるように調整及びネットワークの設定を行った。また東校舎での美術工芸専攻1年生の設定も5月中に行いiPadが使用できるようにした。校務用PCの入替作業及び非常勤講師へのA3ライセンス割り当て申請を滞りなく行った。MDMが設定されていない1年生のiPadについて、年度途中に買い替えた端末のネットワーク設定を今年度新規に行っている。(情報) 校内全ての教室でwifi環境が整うようGIGA校内LAN配線のネットワーク拡張について整備を行った。
研究指定等	府立高校特色化事業(スーパーサイエンスネットワーク京都校)、高校生伝統文化事業(京の文化継承・価値創造推進校)				
評価	A:十分達成できている(目標以上の成果が得られた) B:ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた) C:達成できているとはいえない(成果はあったが、目標に達していない) D:ほとんど達成できていない(ほとんど成果がなかった)				
学校関係者評価委員による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会に通じる人」になるという視点がよい。 ・部活動や学校行事について高評価であることが評価できる。生徒が自主性や協調性を身につける大切な場である。 ・生徒が自立した学習者であり、主体的に探究課題に取り組んでいるようである。このことが学校の特徴として、魅力ある学校になっている。・高校は小中学校に比べて地域との関わりが弱いと言われるが、亀岡の動画紹介などは面白い。誇りは地域とともにというが、引き続き取り組んでもらいたい。 ・Instagramの作りを変えたことで、閲覧数が変わったと聞く。今後どのように学校の魅力をアピール・情報発信していくか、更に工夫してほしい。 ・地域の核となる高校として、意識を高く持って教育に邁進してほしい。 ・キャリア10の取組は、高校だけでなく、小中学校とも連携を取りながら長い時間をかけて取り組んではどうか。 				
次年度に向けた改善の方向性	現状に満足するのではなく、より良い取組ができるようPDCAサイクルの確立を図り、さらなる工夫を加えていきたい。評価Bが評価Aになるための具体的な改善策と検討し、速やかに改善を図りたい。				